

皆様、こんにちは。

私はエリキンジャン・アジと申します。中国新疆ウイグル自治区出身で、シルクロードに古くから住んでいるウイグル民族です。

私は子供の頃に、家にある日本製 NEC テレビよく覚えています。このテレビは私が大学に入学まで 10 年間、一度も壊れた事がありませんでした。日本のすばらしい技術を使用しているテレビの技術を学びたいという意欲で、電子情報技術に興味があり、大学でも電子情報専攻を選んで習いました。大学時は日本に留学して戻って来た先生たちから「日本の技術の素晴らしさと良い教育」を耳にしました。その時から私は機会があれば日本まで行って、世界中に信用されるものを作る人材はどのような教育を受けているのかをぜひ自分の目で確かめようと思い留学先を日本に決めました。

しかし、父の会社が倒産して、家庭の負担を軽減ため、家族の長男として、勉強を止めて、就職しました。それでも、大学の時代に夢を諦めきれない私は、機会があれば留学する希望を持って仕事をしてきました。

その結果 2014 年 6 月に日本の最先端技術を学ぶきっかけで日本へ留学に来ました。2015 年 9 月に足利工業大学の大学院の修士課程情報・生産工学専攻に入学しました。今は自分の興味があるハードウェアとそれに関する知識を勉強しながら手話を認識して音声に変換するシステム開発を研究しています。

日本に来てから留学生活とは予想以上に大変であることが感じました。特に日本語で簡単な挨拶しかできない状態で、勉強とアルバイトを両立するため、連続 36 時間寝なかった経験もたくさんありました。その時、日本人の友人からいろいろお世話になって、日本人の優しさと素晴らしさを感じて、自分の持った夢と選んだ道が間違っていなかったのだということを強く感じていました。

ロータリー米山奨学金をいただいてからも、世話クラブのカウンセラーと世話クラブの人たちとコミュニケーション取って、日本人の親切さ、日本人の挨拶、時間の概念は私に深い影響を残しました。ところでロータリー米山奨学金は貧しい留学生のために支援だけではなく、社会に役に立つ人材を育つ、夢を持つ人たちを支援する場所であることを感じました。米山奨学金のおかげで私の生活がかわっています。勉強と研究があまり進まない状態から、ほとんどの時間を勉強と自分の研究に取り組むのができる状態になりました。これからも人生が変わることについてもっと自信が強まっています。大変感謝しております。

日本の技術を実際に体験してみないと分からないと思います私は、将来の計画については、大学院を終えたら日本で就職したいと考えています。自分の最終的な夢はいつか故郷に帰って日本で学んだきた最先端技術を利用して自分の会社を作って新疆ウイグル自治区と日本のかけ橋になる人物になりたいと思います。